

広島県都市計画審議会 第2回都市政策部会の議事概要について

本県における、都市計画制度の運用の基本的な考え方を示す、広島県都市計画制度運用方針の見直しにあたり専門的な検討を行うため、平成30年9月3日（月）に開催した「広島県都市計画審議会 第2回都市政策部会」の議事概要は次のとおりです。

1 広島県都市計画審議会 第2回都市政策部会の概要

議論の内容：(1)第1回都市政策部会の修正案について

(2)都市像の実現に向けた課題、都市づくりの取組テーマ、運用方針の体系図について

2 委員からの主な意見

- ・ 自転車利用の推進や過度の車依存からの脱却という観点から、「健康」というキーワードを将来像の中で強めに出し、「健康で安全・安心して暮らせる」のように記載してはどうか。
- ・ 都市と農業の関係は重要だと思う。都市的土地利用と農的土地利用の関係性について記載してはどうか。
- ・ 「活力を生み出す」の中の、「全ての人が生きがいや達成感を持って仕事に取り組みながら、健康的に暮らしを楽しむことができる生活環境の整備」について、何をしていくのか具体的なイメージができるキーワードを記載してはどうか。
- ・ 7月の豪雨災害について、様々な部会や委員会でも専門家の方々が将来ビジョンを持ってどういうふうに取り組むべきか検討されているので、それらの意見を、今後、運用方針にもフィードバックさせる必要がある。
- ・ 日常的に豪雨災害が発生しており、平時と災害時の区別がなくなりつつあるということを確認し、平時から災害に対する意識を高めておくことについて記載してはどうか。
- ・ 都市の課題・潮流の日常生活サービスの維持・向上について、病院へのアクセスが確保されていることなど、地域医療の充実を強調してはどうか。
- ・ 都市づくりの方針を整理するにあたって、都市計画制度にどのようなツールがあるか最初に整理してはどうか。
- ・ 「低炭素なまちづくり」といった重要なキーワードがあるので、「環境」というテーマがあってもよいのではないか。
- ・ ツールの洗い出しは重要ではあるが、自分たちの状況を踏まえ、これからどう変わっていくかを自分たちで考えた上で、どのツールを使っていくかが大事。
- ・ 「自分たちのことは、自分たちで決める」がトレンドになってきている中、情報公開が一番重要であり、ネガティブな情報含めてみんなに知ってもらった上で決めていくような仕組みが必要である。
- ・ 自主的にNPOの活動に参加するなど、県の職員が考えて、行動することで話題にもなり、まちづくりも進んでいくと思う。
- ・ 「安全・安心に暮らせる」の将来像における、市街地整備の推進という都市づくりの方針について、防災の観点からしかバリアフリー化が述べられていないが、道路の段差解消といった移動面のバリアフリー化もあり、表現を再検討してもらいたい。

- 都市計画の一番根幹となっているのは居住人口であり、今後、人口フレームについての議論が大事になってくる。
- 高度経済成長期の人口爆発期に計画的に市街地を広げてきた時代から、人口減少により、コンパクトにしなければいけないとなると、区域区分の意味を再確認していかないといけない。
- 広島県は地質的に特殊な地域なので、そういった地域における開発許可制度はどうあるべきかを考えないといけない。
- 広島県のポリシーを持って、今あるツールを整理し、ツールが足りない部分や現行のツールでは困る部分について、独自のツールを作らないといけないのではないか。今あるツールを使いこなして、皆が「広島いいな、かっこいいな、住みたいな」と思えることができればいい。
- 広島型の都市計画のあり方がないといけないのではないか。
- 運用方針を改訂するにあたり、適応し直しましたではなく、足りないところは付け足し、場合によっては否定してみるということもやってはどうか。